

教師を育てた 言葉たち

No. 010

栃木県立真岡工業高校 半田高史先生

はんだ・たかし

◎教職歴 20 年。同校に赴任して 2 年目。
1 学年主任。進路指導部副部長。

栃木県立真岡工業高校 全日制/機械科・生産機械科・電子科・建設科/共学/1 学年約 160 人/2018 年度進路実績 (現役のみ): 足利大、日本工業大、日本大、関東学院大などに 12 人が合格。専修学校、職業能力開発校に進学 30 人。就職 104 人。



高 校時代に勉強で伸び悩んだ私は、3年間を通して担任だった A 先生に支えられました。くじけそうになると「結果は後からついてくるから努力し続けなさい」と励まされ、センター試験で思うように点が取れなかった時には、「何のために3年間頑張ってきたのか」と出願を後押ししてくれました。先生が、私以上に私の可能性を信じてくれたことが支えとなり、第1志望校に無事合格しました。先生がいなければ、私は教壇に立っていませんでした。

教師として初めて大きな壁にぶつかったのは、最初の異動で、学力層が幅広い学校に勤務した時のことです。何とか学力を上げようと必死でしたが、生徒は「どうせできないし」とすぐに諦めてしまい、「そこまで頑張る必要があるのか」と冷やかな目を見る教師もいて、自分の指導に確信が持てなくなりました。

その学校は、A先生の地元の町にある唯一の高校で、先生も赴任されたことがありました。相談をすると、「この町や学校のことを全部教えよう」と、一緒に町を歩きながら助言をしてくれたのです。私の悩みに対し、先生は「**生徒には無限の可能性がある**。まだまだ大きな伸びしろがある」と力強く言われました。その言葉を聞き、一瞬でも「できない生徒もいる」と思った自分を恥じました。そして、高校時代に先生が私を信じてくれたことで、どれだけ支えられたかを思い出しました。

迷 いが吹っ切れ、その後はどこまでも生徒の可能性を信じ、自信を持たせることに努めようと、面談に一層力を入れました。今も心に残ってい

るのは、2・3年次に担任を務めた B さんです。B さんとはとにかく自分に自信がなく、「私が国立大学に行けるわけがない」と、面談で泣き出すこともありました。私は、毎日学習しているその努力を認め、定期考査や模擬試験のデータを示して、「徐々に成果が出ている」と励まし続けました。努力できる生徒だったので、本人が希望しつつ迷っていたフランスでのホームステイへの参加も後押ししました。彼女なら異国の地でも困難を乗り越え、大きな経験を積み、進路選択での自信につながると思ったからです。

B さんの控えめな姿勢は卒業まで変わりませんが、本人も「自分もやればできる」と少しずつ自己肯定感を高め、一層努力するようになりました。そして、見事、第1志望の国立大学に合格し、「先生と出会えたから、今の私がいます。人生が大きく変わりました」とうれしい言葉を残して卒業していきました。

昨年久しぶりに会うと、大学院の博士課程に進んで研究に打ち込み、海外の学会で論文を発表していると報告してくれました。少し自信なさそうに、でも楽しそうに語る様子に彼女らしさを感じつつ、私が思っていた以上に大きく成長して前に進む姿に、生徒の可能性は無限なのだ改めて教えられました。

昨 年、初めて工業高校に赴任し、「大工になって親に家を建てたい」などと、生き生きと語る素直で元気な生徒たちに出会いました。真っ直ぐな思いを持つ生徒たちも、この先、困難や挫折を経験するでしょう。そうした時、誰よりも、その生徒の可能性を信じて後押しできる教師でありたいと思います。